

リリースノート — HELO Plus ファームウェア v2.0.2

Firmware for AJA HELO Plus

全般

HELO Plus ファームウェア v2.0.2 では、いくつかの機能改善が追加されています。潜在的な不具合回避のためにも、最新版のファームウェアにアップデートすることをお勧め致します。

機能および設定のガイドラインについては、インストレーション & オペレーションガイド (ユーザーマニュアル) を参照してください。最新版のドキュメントは、www.aja.com の [HELO Plus サポートページ](#) でご確認いただけます。

v2.0.2 での新機能

- ・ 下記改善点のみのリリース

v2.0.2 での改善点

- ・ RTSP ストリーム設定においてユーザーが任意のポートを設定できますが、以前のバージョンでは実際は常にポート 554 を使用していました。この不具合は修正され、WebUI で設定されたポート番号をシステム上でも使用されるようになりました。
- ・ SD カードがプライマリもしくは単体の収録先として設定されている場合に、再起動後に即座に SD カードへ収録開始しようとする時、時々システムがフリーズし改めて再起動が必要になる不具合を修正しました。
- ・ どちらがプライマリ/セカンダリかに関わらず SD カードと USB メディアの両方へ同時に収録する場合、収録に失敗しシステムが落ちる不具合を修正しました。
- ・ SDI/HDMI 出力へのオーバーレイ表示を有効にしタイムコードソースをタイムコードに設定した場合に、以前のバージョンではタイムコード値が24時間を超えて増えることがある不具合を修正しました。
- ・ SDI/HDMI 出力へのオーバーレイ表示を有効にしタイムコードソースを time of day (日時) に設定した場合に、以前のバージョンでは常に太平洋標準時 (Pacific Time Zone) を表示してしまう不具合を修正しました。

- ・ SDI/HDMI 出力へのオーバーレイ表示を有効にしタイムコードソースを time of day (日時) に設定した場合に、以前のバージョンではメディアがマウントされたりモードを(データ転送と収録間で) 切り替えられた際に、タイムコード表示に戻ってしまうことがある不具合を修正しました。
- ・ SDI/HDMI 出力へのオーバーレイ表示を有効にしタイムコードソースを time of day (日時) に設定した場合に、以前のバージョンでは収録の終わりにタイムコード表示に戻ってしまうことがある不具合を修正しました。
- ・ 長時間収録により複数の連続したクリップが生成された場合、最初のクリップ以外のクリップでは、クリップの冒頭が不完全な状態になることがある不具合を修正しました。
- ・ RTMP ストリーム送出先が見つからない場合や接続が切れた場合に、以前のバージョンでは配信に失敗した旨を明確に表示せず、配信のリトライも行わなかった不具合を修正しました。
- ・ スケジューラーで設定された配信および収録イベントが、webUI 上は実行した表示になっているにもかかわらず、実際には設定した通りの開始/停止の操作が時々実行されていない不具合を修正しました。
- ・ 収録メディアの速度が収録向けには遅すぎる場合、以前のバージョンでは “High CPU Loading” (CPU 高負荷) のアラートが表示されてしまうことがある不具合を修正しました。
- ・ 再起動直後にデュアル収録を行おうとした場合や HELO Plus が長期間稼働せずアイドル状態になっていた場合に、以前のバージョンでは “High System Load” (システム高負荷) のアラートがたまに表示されてしまう不具合を修正しました。
- ・ 以前のバージョンでは、レイアウト表示のワイヤーフレーム (枠線) が 720p 解像度ソースのアスペクト比を正しく表示できない不具合を修正しました。
- ・ レイアウト表示のワイヤーフレーム (枠線) を改善し、グラフィックが枠線で隠れず表示されるようになりました。

既知の問題と機能制限

- ・ RTMP ストリームでは、4 チャンネルオーディオは使用できません。これは HELO Plus の制限事項ではなく、RTMP プロトコル側の制限事項になります。RTMP でのストリーム出力の場合は、自動的に “Audio Source 1&2” は無効になります。
- ・ USB ストレージデバイスは USB ハブを介さず、直接 HELO Plus に接続してください。AJA では HELO Plus と USB ストレージデバイス間に USB ハブを接続している場合にはシステムのパフォーマンスを保証できかねます。

- ・ HELO Plus の再起動後、正常な USB ドライブが “unformatted” と表示される場合があります。この問題は USB ドライブの抜き差しをすることで解消することがほとんどです。
- ・ “authentication (認証)” 機能が有効化されており、ブラウザのセッションで HELO Plus へログインする場合には、ログアウトするためにはブラウザのアプリケーションを終了する必要があります。ブラウザのタブやウィンドウを閉じるだけではログアウトされませんので、ご注意ください。
- ・ ドライブへの収録中に、そのドライブのクリップリストをスクロールすることは推奨されていません。現在の挙動は、アクティブなレコーディングに関する情報が更新されるたびに、システムはクリップリストの先頭にジャンプして戻ります。
- ・ ビデオが 1280x720 よりも高解像度かつ 30fps よりも高いハイフレームレートでエンコードされる場合には、エンコーダー 1 のみ使用可能です。
- ・ 無効あるいは使用不可な収録先を設定している場合、収録は開始できません。2つの収録先が設定されており、2つ目の収録先が有効な場合であっても同様です。
- ・ “Long Single Segment” モードで収録する場合、収録の長さが 12時間 (このモードの最大値) に達すると “Recording Failed (収録が失敗しました)” のアラームが表示されて収録が終了します。これは収録されたファイルが再生できないということではありません。最大時間に達した時点で収録が停止されていない場合に、システムが収録を強制終了したという事実を知らせるものです。収録されたクリップは全体を通して再生可能です。収録先ストレージの容量にもよりますが、“segmented recording (分割収録)” 機能を使用することで、12時間を超える収録が可能になります。
- ・ ライトプロテクト (書き込み禁止) の SD カードは、プライマリ (Main) および セカンダリ (Backup) いずれの収録先としても使用してはいけません。
 - ・ ライトプロテクト (書き込み禁止) の SD カードを挿入した場合、“Backup and Reformat” (バックアップ後フォーマットしてください) とアラートが表示されます。書き込み禁止を解除すれば、アラートは表示されなくなります。
- ・ USB あるいは SD メディアのフォーマットは HELO Plus 上で直接行うことができ、また推奨されています。しかしながら、これらのデバイスは外部のコンピューターでフォーマットすることも可能です。外部のコンピューターでフォーマットを行う場合、デバイスはストレージ全体を使用することができるよう 単一パーティションの exFAT 形式 でフォーマットされていることを確認してください。デバイスに複数のパーティションが存在すると意図しない結果を招く可能性がある為、非推奨です。
- ・ HELO Plus は専用のサーバーや標準のデスクトップ OS で動作しているコンピューターなど、外部 SMB マウントへの収録をサポートしています。HELO Plus は通信に使用する SMB ダイアログを自動的にネゴシエートすることができますが、手動で SMB ダイアログ 1.0, 2.0, 2.1, 3.0, 3.0.2 あるいは 3.1.1 を選択することも可能です。マッキントッシュのコンピューターを使用している方は、SMB ターゲットとして High Sierra 以降の

マシンのみ使用してください。

ネットワークにアクセスしている第三者へユーザーの機密情報が漏洩してしまう可能性があり、安全ではない為、SMB 1.0 (CIFS) を使用することは可能な限り避けてください。

オートモードでは SMB 3.0.2 までしかネゴシエートしない点にご注意ください。SMB 3.1.1 を使用したい場合には手動でオプションを設定する必要があります。

- ・ SMB を使用する場合、HELO Plus はトップレベル (最上層) の共有フォルダ (例: \\<servername>\トップレベルフォルダ) にのみ書き込むことが可能です。また、そのトップレベルの共有フォルダは HELO Plus への read(読み)/write(書き) 両方の権限が許可されている必要があります。権限の設定に関わらず、トップレベルフォルダの下位ディレクトリへの書き込みはできません。
- ・ Windows 10 コンピューターを SMB ネットワーク共有ストレージとして設定し、そのマシンが収録のセッション中に再起動した場合、収録は失敗し、また HELO Plus でその後の収録を実行するためには再起動する必要があります。SMB 共有ストレージが再起動された時に収録されていたファイルは使用できません。
- ・ 使用されている SMB システムによっては、プライマリの収録先として選択されている SMB 共有ストレージを物理的に切断すると、システムに問題が発生する可能性があり、場合によってはシステムの再起動が必要になることがあります。
- ・ Windows あるいは macOS でバージョン 3.0.17 の VLC を使用している場合、HELO Plus からの RTSP ストリームを試聴する時に CC の文字が繰り返されたり、なくなったりすることがあります。どちらのプラットフォームでも、3.0.17 よりも前のバージョンの VLC ではこの問題は発生しません。回避策として、以前のバージョンの VLC を使うか、他のベンダーのストリームビューワーを使用してください。
- ・ Safari のネイティブ HLS サポート経由での HLS 配信を視聴する際は、一度に 1つのオーディオソースのみ聴くことができます。
- ・ 選択した NTP サーバーが落ちたり、何らかの理由で応答しなくなった場合、サーバーが復帰しても HELO Plus は自動的に再接続することはありません。"System" ページの NTP サーバーの項目をクリック、サーバー名がハイライトされた状態で <Enter> を押すことで、手動で NTP サーバーに再接続することができます。
- ・ 有効な入力ビデオ信号が無い状態で PlayToStream 機能を使用する際、ビデオシグナルジェネレーターのフォーマット設定 (Video test Pattern Format 設定) は、PlayToStream ページで選択しているクリップのビデオフォーマットと合わせる必要があります。もしそのように設定していない場合 (又はビデオシグナルジェネレーターのフォーマットが "Auto" にしているものの無効な信号が直近で入力されていた場合)、PlayToStream 機能は失敗します。
- ・ RTMP ストリーム時にエンコード設定にて B フレームを有効にしつつ四分の一 (Quarter) のフレームレートに設定することは可能ですが、その場合はデコードができないストリームになります。この問題

は今後のファームウェアリリースにて修正予定です。

- ・ HELO Plus を Group モードで使用しかつグループのリーダーに設定している場合に、グループ内の別の個体を(その別の個体の webUI で) リーダーに設定しようとする と Leader ボタンをクリアにできないことがあります。その場合はウェブブラウザをリフレッシュすると挙動が改善されます。